

【編集復刻版】

戦前期

同性愛

関連文献集成

内容……

第1巻

色情狂篇・クラフト・エビング／訳 波蘭居士(土筆子)／裁判医学会雑誌所載(八九一、八九五)
 美少年論——名同性色情史・紅夢楼主人(九二)
 変態性慾心理全 クラフト・エビング／訳 黒沢良臣／大日本文明協会(九三)
 神秘なる同性愛 沢田順次郎(九三)
 男性に於ける性的倒錯(性的心理)5 ハヴェロック・エリス／訳 増田一朗(九二八)
 男色考全 軟派十二考第四巻・花房四郎(九八)

第2巻

同性愛の種々相 談奇館隨筆第四巻・アリベル／訳 花房四郎(九二九)
 変態性慾考(性科学全集第八編) 高田義一郎／武俠社(九三)
 同性愛の研究 守田有秋／人生創造社(九三)
 恋愛性慾の心理とその分析処置法 大槻憲一／東京精神分析研究所出版部(九三六)

第3巻

鶏姦罪時代の関連新聞記事 『仮名読新聞』『読売新聞』『朝野新聞』『新聞雑誌』『横浜毎日新聞』から
 女性間の親密な関係に関する雑誌記事を収録

全三巻

A4判／上製／総約一、〇〇〇ページ
 本体揃価格 七五、〇〇〇円＋税 ISBN4-8350-5750-3
 二〇〇六年九月一括刊行

●編・解説 古川 誠 第1・2巻及び第3巻「鶏姦罪時代の関連新聞記事」
 赤枝香奈子(第3巻「女性間の親密な関係に関する雑誌記事」)
 ●推薦 氏家幹人(歴史学者)
 川村邦光(大阪大学教授)



関連図書のご案内

- 編集復刻版
性と生殖の人権問題資料集成 全二十五巻十別冊一
 ●A4判・上製・総一、三三〇ページ
 ●本体揃価格 八七五、〇〇〇円＋税
 ●00年6月、03年2月刊
- 産児調節運動編1、14(編・解説 萩野美穂) 本体揃価格 三三万円十税
 優生問題・人口政策編15、26(編・解説 松原洋子) 本体揃価格 三〇万円十税
 性科学・性教育編27、35(編・解説 斎藤光) 本体揃価格 三三万五〇〇円十税
 《性科学・性教育編目次の一部》
- 第27巻 造化機論 ゼームス・アストン／色情狂編 クラフト・エビング 訳 法医学会
 第28巻 色情と青年 原 真男／性欲衛生論 駿河尚庸
 第29巻 変態性慾論 同性愛と色情狂 羽太鋭治・沢田順次郎
 第30巻 生命と性慾 川村多美子／性慾の調節 三宅龜次郎ほか
 第31巻 変態性慾講義 北野博美
 第32巻 關性術 高田義一郎／変態性格者雑考 中村古映
 第33巻 変態性医学講話 沢田順次郎
 第34巻 性科学 太田武夫
 第35巻 日本人の性生活 篠崎信男
- 中村古映 主幹／日本精神医学会 刊
 [大正6年〜大正15年刊]
- 変態心理 全三十四巻・別冊一**
 ●別冊 解説(曾根博義)・総目次・索引
 ●A5判・上製・総一、二〇〇頁
 ●本体揃価格 三〇万三〇〇円十税
 ●98年4月、99年11月刊(復刻版)
 ●編集委員 小田 晋・栗原 彬・佐藤達哉・曾根博義・中村民男
- 田中香涯 主筆／日本精神医学会 発行
 [大正11年〜大正14年刊]
- 変態性慾 全六巻・別冊一**
 ●別冊 解説(斎藤光)・総目次
 ●A5判・上製・総二、六六頁
 ●本体揃価格 九万円十税
 ●02年10月刊(復刻版)
 ●推薦 佐藤達哉・山下 武

挿画の一部は国会図書館蔵

●表示価格はすべて税別。

不二出版

〒113-0023
 東京都文京区向丘1-2-12
 電話 03-3812-4433
 ファクシミリ 03-3812-4464
 振替 00160・294084

近代日本における、
「同性愛」をめぐるさまざまな言説を収集した
待望の資料集成!

「衆道」「男色」「鶏姦」「硬派」「美少年」などの
 キーワードに表される性愛の様相だけでなく、
 「同性心中」「エス」「男装」やスター的存在への憧憬も含めた
 女性たちの親密な関係をも包括した資料を収載。
 性的マイノリティとしての同性愛者、そして家父長制下における
 女性たちの親しいつながりが、どのように認識され、扱われたのか――
 これまで近現代日本史に欠落していたもうひとつの
 愛情や親密な関係のありようを明らかにする資料集成。

全三巻

A4判／上製／総約一、〇〇〇ページ
 本体揃価格 七五、〇〇〇円＋税
 編・解説 古川 誠(関西大学助教授)
 赤枝香奈子(京都大学大学院研修員)



戦前期

同性愛

関連文献集成

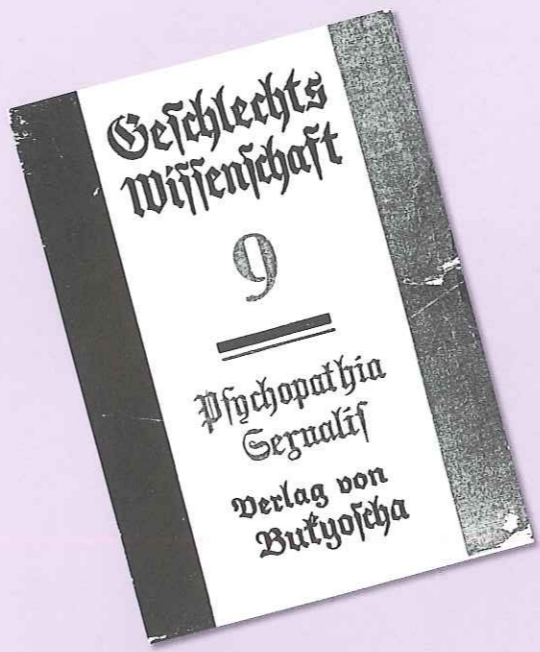


二〇世紀は同性愛の時代であった。一九世紀末のオスカー・ワイルドのスカンダルの時代に、いったい誰が二〇年後に同性どうしの婚姻が正式に認められる社会が来ることを想像していたであろうか。欧米において二〇世紀は同性愛への視点がまさに根本的に転換した時代であった。宗教上の罪から犯罪として精神異常へ、さらにはそれらのネガティブな位置づけを拒否することによって成立した肯定的な性的マイノリティとしての同性愛者、そしてその先のクィアへ。

ひるがえって日本はどうであったか。明治維新による西洋化は社会生活だけでなく性をめぐるあり方も変えていったが、その変化は単純なものではなかった。一八七〇年代には、同性愛行為を処罰する鶏姦罪が制定される一方で、江戸期に西鶴が称賛した衆道の文化は明治になってからもその勢力をたもっていた。ワイルドの同時代に、東京では学生間の美少年愛が一種のブームとなつて世間の注目を浴びていたのである。そしてわずか十数年後には同性愛を変態性欲としてみる見方が急速に普及していった。

二世紀の現在、性的マイノリティはますます重要な社会的イシューとなつてきている。このたび、近代日本における同性愛をめぐるさまざまな言説を資料集というかたちで刊行することになった。もちろんこれはあくまでも膨大な資料の一部にすぎない。編集の都合上、収録できなかった資料も多い。しかしこれらの資料を通して、近代日本社会において同性愛がどのように認識されていたのかを理解するための手がかりが得られれば編者の幸いとするところである。

(古川誠——第1・2巻及び第3巻「鶏姦罪時代の関連新聞記事」編者)



これまで「同性愛」とひとくくりにされてきたわたしたちの親密な関係の歴史を、戦前期の雑誌記事からひもといていく。一方に、科学的、精神医学的なまなざしによって語られる「変態」あるいは「病氣」としての「同性愛」があり、その一方で、同性の心中事件や女学校でのエス、吉屋信子作品に対する支持から、男装の麗人、さらにはレズジャー・スターへの憧れまで、多彩で重層的なわたしたちの実践を見ることが出来る。

ごく一部の「異端者」による実践ではなく、結婚制度や世相、女性たちのおかれた地位など、当時の社会的状況と密接にかかわった、誰もが無関係ではられないような親密な関係である。そこからは、女性の「同性愛」がまさに「愛」という言葉めぐるわたしたちの試行錯誤——規範として課された「愛」の受け入れであると同時に、その読み替え——の歴史であったことがうかがえる。それは、近代日本におけるもう一つの感情の歴史ともいえるだろう。

(赤枝香奈子——第3巻「女性間の親密な関係に関する雑誌記事」編者)



同性愛の心理的意義は何であるか。それは漸次に研究して行くこととし、こゝにはまづその種別から研究して見なければならぬ。

二、同性愛の種別

同性愛者は種々な方面に於いて種々な態度をとるものであるが、フロイドに依ればその種別は次の三者とせられる。但しこれ等は結果から見た區別であつて、原因から見たものではないと云ふことを注意せられたい。

(イ) 完全同性愛者——これは、同性者だけが性的対象となり得、異性は決してその性的憧憬の相手とはならず、或は時にいやな感じさへ起す如き場合である。

(ロ) 心理上の両性具有——これは、同性異性の二つが性的対象となり得るものである。それ故、何れか一方の性のみを目的とする特性は、この程度の同性愛には缺けてゐる。

(ハ) 偶然的同性愛者——これは或る一定の外的条件から起るもので、殊に臨時や寄宿生活の場合に於ける如き、常態的対象の不自出から、或はその模倣から、屢々起るものである。彼等は同性を性的相手として、満足を得ることが出来るものである。

このフロイドの分類は如何にも自明の事のやうに思はれるが、これを他の學者の分類と比較して見ると、その優秀で徹底してゐることが首肯せられる。クラフト・エービングは同性愛者を三分して次の如くしてゐる。分四有林氏著「同性愛の研究」に依る。

第四章 同性愛の心理

第一節 同性愛と異性愛

(A) 同性色情者——これは我々が普通に同性愛者と稱してゐるもので、同性にのみその愛慾の対象を見出すものである。

(B) 女性的男子——これは男子でありながら其の感情、其の感覚が女性的であるがために、同性の中に愛慾の対象を求めなければならない人物である。

(C) 男性的女子——これは感情的にも、性的にも、女性といふよりはむしろ男性的である。のみならず、その肉體的の一部も普通の女性より多少異なる點が發見せられる。

と云つた調子である。併し結局、BとCとはAの内に包含せられてゐるのではないだらうか。私はかかる分類の意義を理解することが出来ない。これに比すると、ヒルシュフェルドの説明(分類ではないが)は、遂に背腹に當つてゐるものがある。曰く——

「男子が女性的であればあるほど、益々男性的の型を愛する。又、男性的の特徵が優越であればあるほど、その人は益々女性的の外観性格を持つた個人、即ち少年を愛する。これと對蹠的に、女性同性愛者は、自分が女性的であればあるほど、男性的の型を持つた精神的な婦人、女流藝術家、女流文學者を愛する。そして、自分が男性的の婦人であればあるほど、純粹な、可憐な少女に愛を感じる。」と。

併しこれらの説明も、精神分析學が與へた明白な命題に遠く及ぶものではない。曰く、——如何なる同性愛者も、同性の内における異性を愛してゐるのである。故にその意味に於いて、如何なる同性愛も、形式上はともかく、内容上は同性愛である。と。かゝる考へ方に當然關係あるものはフェレンチの種別である。彼は主體的

第四章 同性愛の心理

第一節 同性愛と異性愛

一、同性愛の生物學的及び心理學的意義

同性愛とは、男女何れにもせよ、その性対象として同性者を選ぶが如き性的傾向を云ふ。然るに性対象としては異性者を選ぶのが普通(即ち常態)と見なされてゐるから、同性愛は一種の變態性欲と見なければならぬ。ところで、フロイドは變態性欲を對象に即しての變態と目的(仕方)に即しての變態とに分けて研究してゐるので、私も前章に於いてさうして来たが、同性愛は云ふまでもなく、前者に屬するものである。對象に即しての常態とは、年齢差のあまり甚しくない男女の結合を云ふのであるが、變態の内には同性間のもののみならず、人獸間のもの、人間と人形との間のもの、又は幼童を對象とするもの、又は對象を單に空想中に描くものなどがある。併し、同性愛は確に變態ではあるが、これを果して病的と云ふことが出来るかどうかは、なほ疑問である。性慾は元來、生物學的には、種族保存又は持続のための手段として發生したものと認められるが故に、その手段を果すために何の意義も價値もない同性愛の如きは、生物學的には確に病的、又は變質と呼ばれ得るものであらうが、心理學的には病的又は變質と呼ぶことは出来ない。何となれば、同性愛者はその心理的機能に於いて常態性慾者に比して必ずしも劣らず、否寧ろ却つて、時には遂に優秀な個人が屢々その間に發見せられるからである。

日本と日本人を 考えるための基本資料

氏家幹人
(歴史学者)

たとえば永井荷風。一六歳の頃(明治二十七年か)に通っていた高等師範学校附属尋常中学校で、荷風は同級の少年と「イチチアザリ」であると囁き立てられた。「イチチアザリ」とは、義兄でも義弟でもなく同等の立場で交際している友愛関係。荷風はまた、同中学で同性愛的関係の流行に火が付いたのは、校長が柔道家の嘉納治五郎に代わってからだだと回顧している。柔道の稽古が始まると生徒の間で男色の噂が囁かれるようになり、薩摩の男色の聖典『賤の小田巻』や西鶴の『男色大鑑』が読まれるようになったというのである。声変わりした者は、年下の生徒に対する「男色の権利」を獲得したとして、運動場で先輩たちに祝福の胴上げをされたとも……。

軟派で女好きを自負する荷風の著述をひもひもただけでもこの通り。明治大正期の文学作品や日記が、当時の同性愛的感情や風俗の無尺蔵のアーカイブであることは今さら言うまでもない。中世の僧房、近世の梨園、陰間宿として武士の間で行われた男色は、明治以降も、異常性愛と排斥されながらも、学園や軍隊、尚武の世界ほか「男」の世界で命脈を保ち続けた。それがたんに性的嗜好の如何でなく、わが国における男同士の関係のあり方や美学、ひいては人と人の絆の問題と深く関わったことを思えば、われわれは、この問題を避けて、日本と日本人を語れないだろう。

収録された資料は良質とはいえ九牛の一毛に過ぎない。ともあれ初めの二歩は踏み出された。二歩目、三歩目を期待して、私は本集成を推薦する。

実話



同性の愛情に悩む

3 篇



孤高な歩みを あとづける資料群

川村邦光
(大阪大学教授)

『性と生殖の人權問題資料集成』に続いて、『戦前期 同性愛関連文献集成』が刊行されることになった。今でもそうだが、性、特に同性愛はスキヤンダラスに報じられる。アブノーマルとか、変態といった言葉で脚色されるのがつねである。本集成に収められた文献には、一定の性的なるものに対する不寛容さが色濃く現れている。世の好奇の眼ざしに晒され、耐えがたい苦境へと追いやられる。パラドキシカルに、性的なるものの動揺させてやまない危うい魅惑が秘められていたといえるのではなからうか。『猟奇の時代』が隠微な性を生んでいったのだ。

この猟奇の眼ざしに敢然と立ち向かっていった女性がいた。渡辺たみ子や吉屋信子などがそれである。渡辺たみ子は『女学世界』に「同性の愛」と題した文章を載せ、「純な美しい情と情とに結ばれた人間同志のみのグループに住む事が出来るならば、ほんたうに生き甲斐があると思ひます」という言葉を残している。吉屋信子は『返らぬ日』に「わたしはただ、かつみさんそのものあなたが好きな、あなたを愛して愛しぬいてゆきたいの……かつみさん、ふたりはあの伝習的な凡庸な自然への反逆の烽火を挙げる子達になりたくない？」という言葉を書き留めている。同性愛は孤高の道を歩まざるをえなかったのだ。それは現在でも変わりはない。この集成には、そうした道程を刻印した毒々しい言葉や痛々しい言葉、あるいは晴れやかな言葉が溢れている。「凡庸な自然への反逆の烽火」となるであろう、この集成を心から推薦したい。

『主婦の友』一九三四年より

女子の同性愛を語る座談會

(真実)

千葉雄雄氏
諸岡存博士
山田わか女史
平山信子女史
小島郁子女史



小島 どの女学校にも、ありがちなことの中、この女学校の先生が話してみられましたが、どの級にも二組くらいは、かなり入り込んだ同性愛の生徒があるそうです。精神的、極く軽い意味での同性愛なら、もつとあると思ひます。

記者 諸岡先生、同性愛といふものは、お医者様の立場からいふと、一體どんなものでしょうか？

諸岡 イギリスの産婦人科の醫者のヘタワック・エリスといふ人は、その有名な著書『性の神』の中に、同性愛のことを詳しく書いてあるが、それによれば、同性愛は男女の愛の類ですが、それによれば、同性愛は男女の愛の類

千葉 どの女学校にも、ありがちなことの中、この女学校の先生が話してみられましたが、どの級にも二組くらいは、かなり入り込んだ同性愛の生徒があるそうです。精神的、極く軽い意味での同性愛なら、もつとあると思ひます。

記者 諸岡先生、同性愛といふものは、お医者様の立場からいふと、一體どんなものでしょうか？

諸岡 イギリスの産婦人科の醫者のヘタワック・エリスといふ人は、その有名な著書『性の神』の中に、同性愛のことを詳しく書いてあるが、それによれば、同性愛は男女の愛の類ですが、それによれば、同性愛は男女の愛の類

○石井半次郎の来歴(前號の續次)梅屋の抱へ半次郎の前號も云々如く其容貌の美しくしき平白雜物語の春之助か女護太平記の采女血邊磨の印南數馬も是程までいふと思ふ程の美少年也。男色好み客人の我もくつと溺れ狂ひ浮れ通へ半次郎も面白可笑其日くを浮れ暮し十二の歳も疾や過て十三の春となりし一層優る若衆振梅屋の主固に此上なき米櫃と愛しみ化粧も他の少年より亦派まさせて多くの客を取らせるうち其頃神田明神の神主を勤め居たる何某が不圖半次郎と想ひ染め一夜の契り結びしより夜となく晝となく現つを脱し通ひ詰めた揚句も同人と身受して我の傍近く引寄て名を田邊伊織と更めさせ恍惚惚れ夫婦の如く兄弟の如く寵愛なして小性も行装思ひ走鳥兔を送りしは遂に伊織と用人役も進ませ猶も愛して同人の云ふが隨意晝夜女房の如く抱擁して居たる御維新の最初より其時神田

【仮名読新聞】1880(明治13)年6月19日号より

美少年論 一名 同性色情史

○第一 罪惡としての男色

現時的社會的罪惡は買笑、娯楽を見識す
男色行為は買笑と其意義を同ふす
性慾と道徳と何等の交渉なきと今や開明せられたる、性慾に對する道徳上の罪惡は、其行為の有否無を測量する常識によつて判断せられざるべからず
進歩せる社會の道徳は、其社會の安寧順理に適合するを以て最上とす、正當なる夫妻の結婚は其意義神聖なりと雖も、若しマルサス氏の人口論の如く、將來世界の人々を充溢して、居るに所なく、食入に物なき時代來るとせば結婚は罪惡、墮胎は違法と見做さるゝに至らん、道徳の標準は萬古不變のものにあらざるや斯くの如し、性慾の諸問題を論究するに當りては、此の理法を考慮し存し置かざるべからず
買笑、娯楽、は現時の社會組織上多く非難すべき所なし、唯だ自己害し、妻孥に致する淫行の場合に於て罪惡と作するのみ、此種の性慾行為は、其程度の如何に由て道徳の範疇を出入す、之れ現今世界に共通する社會的罪惡の範疇也
之に反し、其行為が直に他の名譽又は身体に傷害を與ふるものは、其犯狀の輕重と、行為の淫逸と未遂は均ならず、直に罪惡なるものあり、強姦、姦淫の如き之れなり、法律は之等に對し、被害者の告訴を俟て其罪惡を論ずるに能ふ、娯樂道徳は、行為其物とて直に罪惡となす、何となれば、意志の發露は於て既に宿すべからざる也

紅夢樓主人著





少女歌劇熱の診断

醫學博士 杉田直樹

人間の感情も思想も時代を反映して、それらからそれへと移って行くのであり、道徳的の批評も社会一般の理想も、決して固定の標準に照準してあるものではない。

最近に至らないとしても、著しく大げらに行はれるやうになり、女性同志の進行と、情死とか殉死とか、しかもそれが少女であり、相対的な年齢の間でも公然行われ、それが又、公然と行われ、



(275) 少女歌劇熱の診断

全3巻の内容

- 第1巻
色情狂篇 クラフトエヒング/訳 波瀾居士(土筆子)/裁判医学雑誌所載(八九一)八九五
美少年論 一名同性色情史 紅夢樓主人(九二一)
変態性慾心理全 クラフトエヒング/訳 黒沢良臣/大日本文明協会(九三三)
神秘的な同性愛 沢田順次郎(九三三)
男性性全(軟派) 考第四巻 花房四郎(九二八)
同性愛の種々相(談話館隨筆第四巻) アリバール/訳 花房四郎(九二九)
変態性慾考 性科学全集第八編 高田義一郎/武伏社(九三三)
同性愛の研究 守田有秋/人生創造社(九三三)
恋愛性慾の心理とその分析処置法 大槻憲二/東京精神分析研究所出版部(九三六)

- 同性愛の女子教育上に於ける新意義 古屋登代子/婦人公論(九二二)
同性愛に関する学説に就いて「変態性慾」(九二四)
熱中 頭象 幻滅 それば女学生の新し流行語「サンデー毎日」(九二四)
女学生間に見る同性愛の研究 倉橋惣三・河崎夏子/主婦の友(九二五)
女運動選手と同性愛に陥ちた娘 川村理助/婦人世界(九二八)
同性愛考 浜尾四郎/婦人サロン(九三〇)
脱線する若い娘たちの心理 最近の三事件について「婦人公論」(九三三)
対談会 三原山事件を中心に「ミセス羽仁・若き娘たち」/婦人(九三三)
少女達と死の座談会「婦人公論」(九三三)
宝塚デパート物語 小野文子 橋本事件と彼女達の同性愛 森畑 誠/話(九三三)
私が再び女に還る日 男装の川島芳子さんが打明けた赤裸な心境 婦人倶楽部(九三三)
同性愛に陥り行く処女 豊田春樹/婦人公論(九三三)
同性愛に悩める教へ子 杉田直樹/婦人公論(九三三)
「女子教育と同性愛」の問題 高良富子/婦人公論(九三三)
何故に男装するか 川島芳子と金壁輝/話(九三三)
婦人の同性愛 高水力太郎/精神分析(九三三)
同性愛心中の許婚者愛子 宇留天浩/婦人公論(九三三)
実話篇 同性愛の愛情に悩む 鬼頭弘江・金沢幸江・牧里葵子/婦人画報(九三三)
妻は男ではない!! 佐久間秀佳/話(九三三)
同性愛三人心中事件の真相と批判「婦人倶楽部」(九三三)
女子の同性愛を語る座談会 千葉亀雄・山田わか・小泉郁子・平山信子・諸岡在/「主婦の友」(九三三)
娘の恋愛・同性愛と母 吉田絃郎/婦人公論(九三三)
男装の麗人と西条栄子/「婦人公論」(九三五)
同性愛の歴史観 安田徳太郎/中央公論(九三五)
「男装の麗人」の女学生時代を語る「土を忘れた蟬がら」のやうな家庭 谷数江/話(九三五)
少女歌劇熱の診断 杉田直樹/婦人公論(九三五)
女にかへる日の告白 批判 当選批判文 増田富美子の手記を讀みて 黒井とし・中村静子・羽山圭子・無名尼・西条エリ子/婦人公論(九三五)
同性愛は恋愛と同じか 片岡鉄平/婦人公論(九三六)
同性愛心中の秘密 愛すればこそ三人死を選ばず 北田秀子/婦人公論(九三七)

戦前期 同性愛関連文献集成 関連年表
1873 改定律令に鶏姦罪規定
1882 旧刑法制定にあたり鶏姦罪消滅
1885 坪内逍遙「当世書生気質」に龍陽主義を唱える学生が登場
1891 「裁判医学」雑誌にクラフトエヒングの「色情狂篇」翻訳が連載開始。1894年に単行本化
1899 東京市に男色と決闘を旨とする「墮落」少年団白袴隊が跋扈。「万朝報」がその同性愛を「不品行」と非難
1900 舟岡英之助、国家医学会で「男色」就講演
1906 東京市に「男色隊」を中心に活動する暴力少年団・高龍義団が結成。「万朝報」再び糾弾キャンペーン
1909 日本花柳病予防会の講演会で医学者・大野豊太、「少年と花柳病」という題目で同性間の肛門性交の医学的弊害を強調
1911 森鷗外「エタ・セクスアリス」で明治期の学生文化における硬派について描く
1911 新潟で高等女学校卒業生一人が同性愛関係をめぐらされて投身自殺
1911 雑誌「新公論」で性欲特集号
1913 クラフトエヒング「変態性慾心理」大日本文明協会より翻訳刊行
1914 折口信夫「口ぶえ」少年同志の恋愛をテーマとした小説
1915 沢田順次郎・羽太鋭治、同性愛など性的マイノリティに関する大著「変態性慾論 同性愛と色情狂」を刊行
1917 中村古映、雑誌「変態心理」刊行
1920 古屋信子「屋根裏の二処女」で女同志の親密な関係を描く
1922 田中春彦、雑誌「変態性慾」刊行
1926 梅原北明、雑誌「変態資料」刊行
1920年代後半〜1930年代
男娼(組織的な同性愛売春団)が社会的に表面化
1933 東京の女学生三人による三原山投身自殺事件
1934 東京で喫茶店勤務の女性二人の同性愛心中未遂事件
1935 女優と男装の女性との恋愛事件
1935 医学者斎藤茂吉、女性の同性愛事件に、同性愛を家庭の責任に求める発言
★は本「同性愛関連文献集成」所収
*は小社関連図書に所収

本邦唯一の洋裁専門
本邦唯一の文部大臣認可財団法人
文化裁縫女学校

文化裁縫女学校
本邦唯一を適確に語るこの数字!!
夜間部あり
入學資格 高女卒以上 見よ!
入學期日 五月一日
職員は最高權威者 網羅六十八名